

患者急増 多い若年発病

「炎症性腸疾患」は、消化管に原因不明の炎症が生じる病気だ。

以前はまれな病気だったが、近年、患者数は急増しており、主な炎症性腸疾患である潰瘍性大腸炎とクローン病を合わせると18万人に達する。若くして発病することが多く、根治療法が

ないため、生活に及ぼす影響は非常に大きい。治療は薬物療法が中心で、近年は、免疫にかかわる特定の物質の働きを抑える生物学的製剤が登場し、重症者にも効果を発揮している。

潰瘍性大腸炎は、大腸に炎症や潰瘍が生じ、下痢や腹痛、下血などの症状が出る

る。炎症や潰瘍は大腸に連続的に広がる。

一覧表には、昨年1年間の新規患者数、症状が悪化した時に血液を体外に出して、異常に活性化した白血球を取り除く血球成分除去療法を受けた患者数、大量出血や大腸が破れるなどした場合に大腸自体を切除す

る外科手術を受けた患者数を載せた。

クローン病は、大腸や小腸など消化管のどこにでも不連続に炎症や潰瘍が生じる可能性がある。腹痛や下痢、下血、体重減少などを伴う。一覧表には昨年1年間の新規患者数と、大量出血した消化管の患部を切除したり、腸が狭くなった部分を広げたりする外科手術を受けた患者数を掲載した。

病院の実力「炎症性腸疾患」

医療機関別2012年治療実績(読売新聞調べ)

医療機関名	潰瘍性大腸炎			クローン病	
	新規患者(人)	患者(人)	外科手術を受けた患者(人)	新規患者(人)	外科手術を受けた患者(人)
兵庫医大	288	99	183	392	108
神戸市立医療七西市民※	68	4	1	10	5
加古川東市民	46	0	0	1	1
神戸市立医療七中央市民	37	5	3	12	3
市立川西	30	4	2	2	0
宝塚市立	26	0	2	7	1
姫路赤十字	20	65	2	15	2
市立伊丹	20	4	1	6	0
ベリタス	19	0	0	1	0
近畿中央	17	2	0	11	0
神戸海星	17	1	0	1	0
加古川西市民	16	-	-	9	1
神戸大	14	1	1	7	1
協立	12	0	0	3	0
市立西脇	10	0	1	0	0
川崎	9	5	1	3	0
赤穂市民	9	5	0	1	0
神戸労災	8	0	0	1	0
神鋼	8	4	3	0	1
県立加古川	7	3	0	3	0
明和	7	3	0	2	1
宝塚第一	6	0	0	2	0
国・兵庫中央	6	0	0	1	0
神戸アドベンチスト	5	0	0	2	0
県立尼崎	5	0	0	2	0
県立西宮	5	6	0	1	1
三菱神戸	4	2	0	2	0
社会保険神戸中央	4	0	0	1	0
市立加西	4	1	0	1	0
神戸百年記念	4	0	0	0	0
明石市立市民	4	2	0	0	0
大阪回生	80	5	2	20	0
大阪市大	78	13	0	45	0
近畿大	64	10	4	21	0
岸和田徳洲会	44	3	1	10	0
大阪警察	44	3	0	2	0
北野	43	0	6	16	6
国・大阪南	36	8	1	8	1
大阪大	34	2	9	29	14
大阪医大	32	11	7	13	8
阪和住吉総合	31	5	7	27	5
関西医大香里	31	6	1	12	1
市立豊中	30	7	1	5	0
済生会千里	29	4	0	14	1
大阪赤十字	28	12	2	7	0
済生会吹田	28	5	1	4	0
りんくう総合	27	0	0	12	0
済生会中津	27	28	1	7	0
府立急性期・総合	20	5	2	5	2

兵庫県

大阪府

「国・」は国立病院機構。「セ」はセンター。「一」は不明または無回答。※は2012年度の実績。日本消化器病学会の認定施設を対象に調査

*全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。